



●北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会（石川県部会）を開催しました！

7月3日（金）、金沢河川国道事務所にて、「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会（石川県部会）」のH27年度第1回会議が開催されました。

同協議会は、北陸建設界の担い手を巡る現状や課題に関する認識を共有し、建設界の担い手不足に対して、建設関係団体・教育機関・関係行政機関等が一体となって、担い手確保・育成の取り組みを推進することを目的にH26年10月に設置されたものです。

今回の会議では、最近の建設行政について情報を共有することや、インターンシップの充実を図ることなどを確認しました。H27年度の共通目標には土木・建築系学生を対象に大学・高専などの年間を通じたカリキュラムを開設し、若者に建設界の魅力を発信することなどを掲げました。

このほか、北陸地方整備局からは将来の担い手となる若者に公共事業の効果を現場体験を通して伝え、建設産業の魅力を感じてもらうため、現場見学会の開催を契約事項の特記仕様書に盛り込む「現場見学会提案・実施モデル工事」を全国で初めて試行することが報告されました。



関連URL：記者発表資料 http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/mb5_kouhou/press/h27/p0702_1.pdf

●能越自動車道 輪島道路で「三井小学校」の児童が工事現場を見学しました！

7月17日（金）、輪島市立三井小学校の児童ら約30名が、能越自動車道 輪島道路（能登空港IC-輪島IC、延長11.5キロ）の工事現場を見学しました。

児童たちは、金沢河川国道事務所の健名政博建設監督官から輪島道路の構造などを学んだ後、現場作業員と一緒にパワーショベルに乗り、掘削作業を体験しました。また、県埋蔵文化財センター（金沢市）の職員から「中カワナミマエダ遺跡」（輪島市三井町）の発掘調査について説明を受けました。児童たちは工事についての説明を真剣に聞き、輪島道路や道路工事について理解と親しみを深めてもらいました。

能越自動車道輪島道路事業【三井IC(仮称)～能登空港IC間 L=4.7km】において引き続き工事を重点的に進めてまいります。

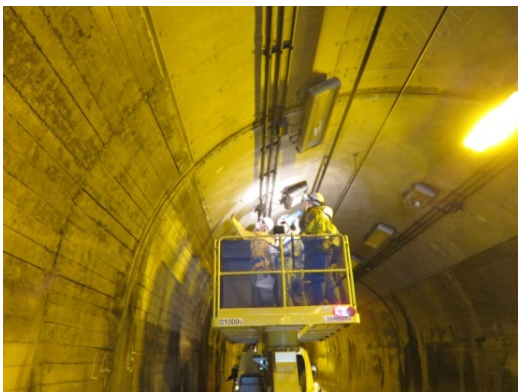


関連URL：記者発表資料 http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/mb5_kouhou/press/h27/p0716_1.pdf

●トンネル点検現地講習会を実施しました！

7月23日（木）国道160号沢野トンネル（七尾市沢野町）、7月24日（金）国道159号卯辰トンネル・下り歩道（金沢市東長江町～鈴見町）にて、トンネル点検の現地講習会を開催しました。

この講習会は老朽化したトンネルの点検方法等について、県内自治体職員の技術力向上のための支援として、県道路メンテナンス会議が実施したもので、石川県、県内市町の担当者25名が参加しました。参加者は、点検項目の確認や高所作業車上からの近接目視点検を行い、実際にテストハンマーによる打音点検を行って損傷が発生しやすい箇所等を確認しました。



国道160号沢野トンネル



国道159号卯辰トンネル・下り歩道

関連URL：記者発表資料 http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/mb5_kouhou/press/h27/p0721_1.pdf

**●自転車ネットワーク形成に向けた勉強会を開催しました！**

7月25日(土)、金沢自転車ネットワーク協議会主催の勉強会を、金沢市武蔵町のITビジネスプラザ武蔵で開催しました。本勉強会は、自転車ネットワーク形成に向けた有用な知見を得ることを目的としており、今回で6回目をかぞえ、約50名に参加頂きました。

「自転車通行空間の整備と交通安全教育のあり方」をテーマとした基調講演では、大阪市立大の吉田長裕准教授が、小、中、高校と進むにつれ自転車事故が増加する実態に触れ、免許取得までに道路交通法を学ぶ機会が不足していると問題点が指摘されました。また、国土交通省道路局環境安全課 酒井洋一道路交通安全対策室長からは、自転車交通の現状や施策の取組状況など全国的な話題について講演頂きました。他にも、先進地の事例として、京都市の担当者が同市の自転車政策について説明しました。

このほか、県警や金沢河川国道事務所、石川県、金沢市の担当者らが、金沢市内における自転車利用環境向上への取組みについて説明しました。

金沢自転車ネットワーク協議会では、歩行者、自転車、クルマのそれぞれが安全に安心して通行できる道路空間の創出に向け、学識者、関係行政機関が連携を図りつつ面的な自転車ネットワーク及び整備形態の検討等を行っていきます。

関連URL：記者発表資料 http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/mb5_kouhou/press/h27/p0724_1.pdf

●～「道の駅」と大学との連携～大学生が能登の地域活性化に取り組みます！

北陸地方整備局は、国土交通省が全国で進めている「道の駅」と大学との交流・連携の一環として、金沢星稜大学と道の駅すずなり及び金沢河川国道事務所の3者で連携企画型の実習を実施し、奥能登の地域活性化に取り組みます。

この取り組みは、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するとともに、「道の駅」が地域活性化の拠点を目指して進化を遂げるため、「道の駅」と大学がお互いのニーズを確認し、付加価値を創出するための企画・立案等を実施するもので、県内初（北陸地方としても初）の取り組みとなります。

主な実施内容は、道の駅すずなりの商品・販売方法および知名度向上に向けた企画を想定しています。

金沢星稜大2年生と3年生35名が8月24日(月)～25日(火)の2日間で現地調査を行い、具体的な計画づくりを進める予定です。

関連URL：記者発表資料 http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/mb5_kouhou/press/h27/p0728_2.pdf

●能越自動車道七尾氷見道路 第2回(仮称)県境PA名称検討会を開催しました！

7月31日(金)、金沢河川国道事務所にて、能越自動車道七尾氷見道路(仮称)県境PA名称検討会(委員長・高山純一金沢大学理工研究域環境デザイン学系教授)の第2回会合が開催されました。

当検討会は、2月28日に全線開通した七尾氷見道路のうち、石川・富山県境(七尾市の七尾大泊ICから氷見市の灘浦IC間)に計画されるPA(パーキングエリア)の名称を選定することを目的に設置されたものです。

6月16日から7月16日までの名称公募では536件と多くの公募をいただきました。当検討会では、道路利用者にわかりやすいこと、PAの位置や地域のイメージに合っていること、公募の結果などを考慮し、上りは「能越県境パーキングエリア(石動山側)」、下りは「能越県境パーキングエリア(仏島側)」が選定されました。名称の決定は8月下旬を予定しています。

関連URL：記者発表資料 http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/mb5_kouhou/press/h27/p0729_1.pdf

**★お問い合わせ先★**

国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 副所長 杉 浩行

電話 076-264-8800(代表) FAX 076-233-9631

金沢河川国道事務所ホームページ

URL: <http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/>

金沢河川国道事務所モバイルサイト(携帯サイト)

URL: <http://roadinfo.kanazawa-mlit.com/k/>